



「岩手県環境保健研究センター」では、県民の皆様の健康といわでの環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- 1 県民の皆様の健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- 2 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- 3 行政の課題に対応した調査研究
- 4 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「**環保研聞録**～I-RIEP Journal～」では

「環保研（かんぽけん）センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

環保研聞録のバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。



https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/oshirase/i-riep_journal.html

食品の放射性物質検査について (衛生科学部)

食品中の放射性物質検査は、原子力災害対策本部の指示を受け、県が策定する検査計画に基づき実施しています。

野菜・食肉・牛乳などの市場に流通している食品を保健所の食品衛生監視員が集め（収去と言います）、当センターでゲルマニウム半導体検出器により測定・解析し、放射性セシウムの基準値を超える食品が流通していないかを検査しています。

今年度は、10月末現在で、120件の流通食品の収去検査を行いました。基準値を超過したものはありませんでした。

また、流通食品以外には、県内4カ所の水道水を年4回、春には、野生山菜を31市町村について、秋には、野生きのこを15市町村について検査を行いました。基準値の超過はありませんでした。

表1 放射性セシウムの食品中の基準値

食品群	基準値 ($\mu\text{Ci}/\text{kg}$)
一般食品	100
乳児用食品	50
牛乳	50
飲料水	10

基準値を超える放射性物質が検出された場合は、状況に応じて、当該食品の回収や出荷又は摂取制限などの措置がとられることになります。

なお、野生の山菜やきのこは、未だに出荷自粛等が行われている地域もありますので、採取・販売する場合は、県のホームページなどで情報を確認して下さい。



写真：ゲルマニウム半導体検出器

【県のホームページ】

食品の放射性物質濃度検査結果

https://rad.pref.iwate.jp/food_search.php

水道水の放射性物質濃度の測定結果について

<https://www.pref.iwate.jp/houshasen/torikumi/suidou/1002145.html>

野生山菜を採る際に注意すること

<https://www.pref.iwate.jp/houshasen/1002103.html>

野生きのこを採る際に注意すること

<https://www.pref.iwate.jp/houshasen/1002102.html>



インフルエンザをよく知って、しっかり予防しましょう。(保健科学部)

インフルエンザは、38℃以上の発熱やせき、のどの痛み、全身の倦怠感や関節の痛みなどの全身症状を起こすインフルエンザウイルスによる呼吸器感染症です。インフルエンザの感染力は非常に強く、日本国内では毎年約1千万人、約10人に1人が感染しています。今シーズン、全国では例年より早い流行入りが報告され、岩手県でも、過去10年間で最も早く、10月下旬に流行入りしました。これから感染する人が増加していくと思われませんが、インフルエンザのことをよく知って、しっかり予防しましょう。

インフルエンザはどうやってうつるの？

“飛沫感染”と“接触感染”があります。飛沫感染は、感染した人がせきをするこで飛んだ飛沫に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込み感染することを言います。接触感染は、感染した人がせきを押しえた手や鼻水の付いた手でドアノブ、スイッチに触れるこでウイルスを含んだ飛沫が付着し、そこに別の人が触れその手で鼻、口に触れ、感染することを言います。

インフルエンザにうつらないためには？

飛沫感染、接触感染を防ぐことが感染予防になります。

- ① 外出し帰宅したら手洗いをしましょう。
 - ② アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果があります。
 - ③ 栄養、睡眠を十分とり、ふだんの健康管理に気を付けましょう。
 - ④ ワクチン接種※が最も有効です。
- ※ ワクチン接種は感染する可能性を減らし、もし感染し発症しても重症化することを防ぎます。
- ※ 一般的にワクチンの効果が現れるまで接種から約2週間かかり、その効果は約5か月持続します。

インフルエンザにかかったら

周りの人にうつさないよう、“せきエチケット”が大事です。マスクをして、近くの内科、小児科を受診しましょう。

“せきエチケット”って？

インフルエンザにかかったら、周りの人にうつさないことが大事です。せきやくしゃみにはウイルスが含まれているかもしれないので、次のことに注意しましょう。

- ① せきやくしゃみが出ているときは、マスクを着用しましょう。
- ② せきやくしゃみをするときは他の人から顔をそらすか、袖口、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。

インフルエンザで注意すること

- ① お年寄り、お子さん、妊婦さん、持病のある方は、症状が重くなることがあるので注意が必要です。
- ② 重症化のサイン※がみられたら、すぐに医療機関を受診しましょう。

※ 重症化のサイン

- 共通：おう吐や下痢が続いている
症状が長引いていて悪化している
- お子さん：けいれん、呼びかけに答えない
呼吸が早く苦しそう
顔色が悪い
- 大人：呼吸困難、息切れ
胸の痛み



厚生労働省 HP から

◎ 岩手県感染症情報センター

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

Check!



水質事故の防止について (環境科学部)

「水質事故等」とは、油や化学物質等が河川等へ流入し、油膜の発生や魚等の水生生物が死亡する等の異常が発生することをいいます。岩手県内では、毎年 60～70 件程度の水質事故が発生しています。

水質事故等の発生時、環境科学部では県庁環境保全課や県振興局と連携し、原因究明や安全確認のための水質調査を行います。例えば、河川での魚類のへい死等が確認されながらも、現地調査では発生原因が特定できない水質事故等の場合、GC-MS や ICP-MS といった測定装置を使用して、河川水中の農薬成分、消毒剤成分、重金属等を分析します。



写真：農薬等の測定装置 (GC-MS)



写真：重金属の測定装置 (ICP-MS)

冬の時期に皆様に注意していただきたいのが、灯油や重油等が流出する「油流出」です。油流出は、毎年最も多く発生する水質事故であり、水質事故等の種別のうち 60～80% を占めます。その発生原因の多くは、パイプの破損やホームタンクからの給油中にその場を離れたこと等、「管理不備」や「操作ミス」です。油が流出した側溝の清掃や土壌の除去等の処理には、多額の費用を要し、その経費は原因者の負担となってしまいます。

タンクを設置している一般家庭や事業所では、タンクや配管等の設備をこまめに点検し、給油時にはその場を離れないようにする等、油流出事故の防止にご協力をお願いします。また、油流出を発見した場合は、すぐに消防署・警察署・市町村または県の機関へご連絡ください。

岩手県内の水質事故の状況は以下のページで確認できます。



<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/hozen/suishitsu/1005896/>

今年の実りのブナについて (地球科学部)

岩手県環境保健研究センターでは、ツキノワグマの出没に関する注意報発表の判断に資するために、北奥羽地域において、出没に関係していると考えられる、ブナの豊凶調査を毎年実施しています（北奥羽地域 9ヶ所、ブナ 700 本）。

この地域における平成 30 年度のブナの着果度指数は 2.85 と並作でしたが、今年度は 0.38 と凶作の結果となりました。

岩手県では毎年ツキノワグマによる人身被害が発生しています。入山する際は十分に注意して入りましょう。

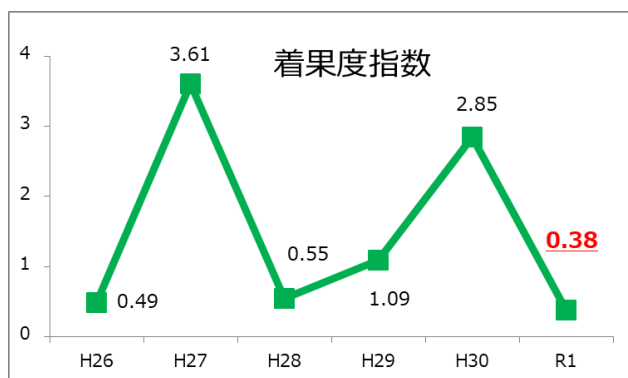


図 1 北奥羽地域のブナの着果度指数

区分	結実状況	指数
評価 5	非常に密に着果。ほぼすべての枝に非常に密に着果。	5
評価 4	全体に密に着果。半分以上の枝に着果。着果数が多い枝が多い。	4
評価 3	全体に疎に着果。枝の着果数は少ない。全体的に着果している。	3
評価 2	一部に密に着果。着果している枝は半分以上。	2
評価 1	一部に疎に着果。枝の着果数は少ない。着果している枝は半分以下	1
評価 0	30 秒探しても実が全く見つからない	0

表 2：調査方法

【県のホームページ】

ツキノワグマによる人身被害状況・出没状況について

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/yaseidoubutsu/1005471.html>

Check!



かんぽけん一般公開 2019 について (企画情報部)

去る 10 月 5 日(土)に今年で 19 回目となる『一般公開』を開催させていただきました。

当日は、「いわての環境とわたしたちの健康」をテーマに、当センターが行っている様々な業務内容や役割について体験コーナーや展示を通じて知

っていただく機会となりました。

また、500 名を超えるお客さまにご来場いただき、平成 25 年度に土曜日みの開催となってから、最大の来場者数を記録しました。御来場いただき、誠にありがとうございました。

開催概要

1 開催日時

令和元年 10 月 5 日(土) 9:00~16:00

2 来場者数

530 人(前年度 419 人・平成 30 年 10 月 6 日(土)開催)



岩手県 3R 推進キャラクター「エコロル」

来年も来てね!



健康は毎日の生活習慣から / 保健科学部



県民の食の安全安心を守る / 衛生科学部



持続可能な水環境のために / 環境科学部



岩手県の大気と自然 / 地球科学部



環境保健研究発表会



下水道・浄化槽コーナー

【編集後記】

おかげさまで、環保研聞録 / I-RIEP ジャーナルも今号で 20 回目の発行となりました。これからも、健康と環境に関する情報を積極的に発信してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。なお、次号は令和 2 年 2 月に発行する予定です。(と)

《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目 11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

メール: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

